

第9図 出土石器実測図 (1:2)

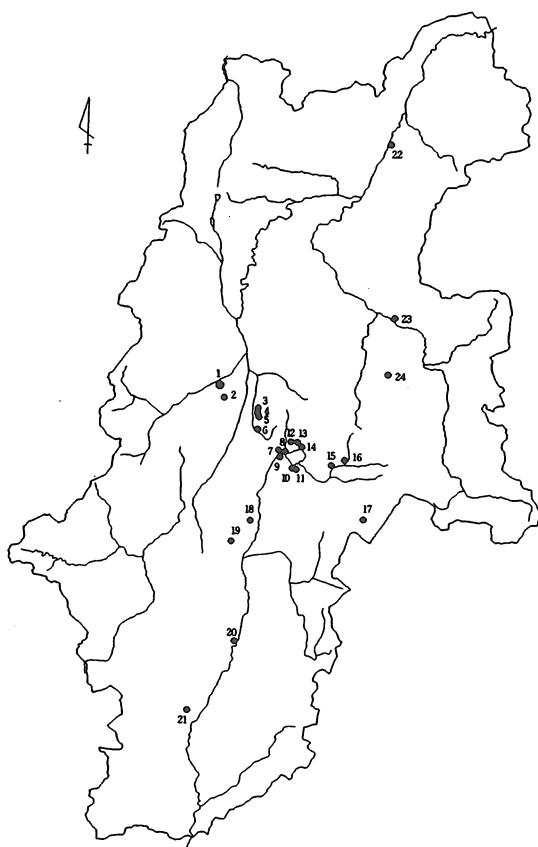
だけで、もう片面には研磨の痕跡がみられない。9の磨石には全面にわたって磨られた形跡が確認でき、使用頻度はかなり高かったと考えられ。粗粒凝灰岩が石材として用いられているため、柔らかく加工は比較的容易に行われたと思われる。このほか住居址埋土から出土した大小の石塊を精査したが加工痕はなかった。

第4節 長野県内における縄文前期末の集落

全国的にもこの時期は類例があまり多くないので、参考までに長野県内の縄文前期末の遺跡や住居址について少し触れておきたい。

1万年もの長きにわたって続いた縄文時代は、草創期・早期・前期・中期・後期・晚期と大きく区分することができる。これらの時期は各々異なった時代背景のもと、様々な生活が繰り広げられていた。

県内においては、草創期から中期にかけて順調な展開がみられるが、続く後期・晚期になると遺跡は激減してしまう。本遺跡の営まれた縄文前期は、飛躍的発展を遂げる中期の前段階として重要な意味をもつ時期である。縄文前期は集落内における住居数の増加や住居の拡張、建て替えが多くみられるようになることから人々の定着性が強くなったことが窺え、環状や馬蹄形といった形態をとる集落も登場す



第10図 長野県下における縄文前期末遺跡の分布

るようになった。このような前期のなかで、下島遺跡で縄文人の生活が営まれた前期末という時期は、中期への過渡期としてその果す役割は大きなものがあるが、時代の接点という背景のためか不安定な時期であり、前後する時期に比べ遺跡は少なく、逆にいえば本遺跡の重要性はますます高まるといえる。

では県内の住居址が発見された遺跡の分布（第10図）をみると、圧倒的に諏訪湖周辺に多く分布しているのがわかる。また、諏訪盆地と塩尻峠を境に接している松本市にも比較的多くの遺跡が営まれている。これらの地域は続く中期になっても全国的にも遺跡の宝庫といえる様相を呈しており、住みよい生活環境に恵まれていたことが想像される。また一方ではこの地域が開発による緊急発掘が多数行われていることも考慮しておく必要がある。他地域においても遺跡の広がりは確認されるが、数的には僅かである。住居の形態は、楕円形および不整円形が主体であるが、不定形の住居も多くみられる。これらの住居は、4本柱、5本柱と

いった明確に規定された形態をとらず、住居内縁辺を廻るように配置されるものが多くみられる。住居に伴う炉については石囲炉はほとんど無く、地床炉や埋甕炉が中心である。

いずれにしても、当該時期は不明な点が多く今後に多くの課題が残されている。

第3表 長野県下における縄文前期末遺跡一覧（第10図と遺跡No.は対応）

番号	遺跡名	所在地	検出遺跡
1	下島遺跡	東筑摩郡波田町	前期末(1)
2	唐沢遺跡	東筑摩郡山形村下竹田	諸磯C(2)
3	古屋敷遺跡	塩尻市片丘南内田	諸磯C～十三菩提(5)
4	白神場遺跡	松本市寿小赤	前期末(6)
5	剪屋敷遺跡	塩尻市片丘北熊井	諸磯C(1)
6	五輪堂遺跡	塩尻市金井	諸磯C(2)
7	大洞遺跡	岡谷市	前期末(3)
8	海戸遺跡	岡谷市小尾口	籠畠II(1) 前期末(1)
9	西林A遺跡	岡谷市神明町	前期末(1)
10	荒神山遺跡	諏訪市湖南	日向I(1) 日向II(1)
11	本城遺跡	諏訪市湖南	日向I～II(1)
12	扇平遺跡	岡谷市长地横川	日向I(3) 日向II(4) 篠畠I(2) 籠畠II(1) 前期末(2)
13	武居林遺跡	諏訪郡下諏訪町東山田	日向I～籠畠I(9)
14	一の釜遺跡	諏訪郡下諏訪町	前期末
15	よせの台遺跡	茅野市米沢	日向I(1)
16	高風呂遺跡	茅野市	前期末
17	籠畠遺跡	諏訪郡富士見町鳥帽子	日向I(3) 日向II(2) 篠畠I(3) 籠畠II(4)
18	上の林遺跡	上伊那郡笑輪町	籠畠II(1)
19	月見松遺跡	伊那市小沢	前期末(1)
20	中村遺跡	上伊那郡中川村	前期末
21	中島平遺跡	飯田市三日市場	籠畠(1)
22	立ヶ花遺跡	中野市	前期末
23	鍛冶屋遺跡	小県郡東部町	前期末
24	竹之城原遺跡	北佐久郡望月町	日向I(1)